

◇学校運営の反省と次年度の構想 渡邊 岳 校長

- 第2回学校運営協議会以降の子どもたちの頑張りについてですが、1つ目は、押切スタンダード「あいさつ・返事・あとしまつ」についてよく心がけてくれた。また、自分のことだけでなく友だちを気遣う優しさも育ってきている。2つ目は伝統行事となっている百人一首です。学年の目標を達成する児童が例年以上に多く、名人に合格した児童が47人もいた。
 - 12月には全校バイキング給食で子どもたちが喜んだ。全校でバイキング給食を行うのも押切小だけである。
 - 国際交流授業として、山形大学農学部の学生が来てくれて5、6年生が英語で交流した。児童の度胸の良さに驚かされた。
 - 2分の1成人式では、昨年、ユーチューバーが人気だったが、今年の特徴としては自分のなりたいたい様々な職業を掲げる児童が多かった。
 - 3学期は、「自分の目標」と「友達」を大切に生活してきた。3学期に頑張りたいことや次の学年に進むにあたって自分にどんな力が必要なのかを目標としてほしいこと。友だちを大切にするために「ありがとう」と「ごめんなさい」をきちんと伝えることが大切であることを話した。
 - 書初め展をはじめ、校外のコンクールやスポーツ少年団活動でも活躍が目立った。
 - 三川ふるさと学習のまとめに取り組んでいる。三川紹介するパンフレットや防犯標語の幟端をつくり地域に発信することにしている。
 - 学校評価アンケートの結果からは、児童アンケートでは、17項目中16項目で80%を超え子どもたちが頑張っていることがわかる。特に、「授業がよくわかりますか」「先生や友達の話をしっかり聞くことができましたか」の項目が高くなっていて、グループ学習やペア学習の成果がみられる。また、学校の決まりや給食のマナーを守り安全に気をつけて生活ができたと評価している子どもが多く、きまりを意識しながら生活できた。課題になることは、「家でゲームをする時間（30分）をまもっていますか」で、ゲームの時間だけでなく、睡眠時間の確保や起床時間を守ることに一緒に考えて生活リズムを考えていくようにしたい。
-
- 保護者アンケートでは、「自分の考えをしっかり伝えていきますか」と「少し難しい問題にもあきらめずに取り組みましたか」について大きく向上が見られた。「学校に楽しく通っていますか」「友達となかよく過ごしていますか」では95%を超える高評価をいただいた。また、「きまりを守って生活していますか」と「安全に気をつけて生活していますか」の項目は、子どもたちと同じく高評価であった。課題になることが、「家でも読書をしていますか」「ゲームをする時間を守っていますか」「家で進んでお手伝いをしていますか」の項目だった。今後、家庭と連携し改善を図っていききたい。
 - 保護者による記述欄に書かれていたことで、お便り等の写真を鮮明にしてほしいという要望や感染症の発症時に学校メールを使った迅速な対応について今後注意していきたい。子ども同士で名前の呼び捨てについては、「くん」「さん」をつけて呼ぶことを指導し、給食時に、おかわりをしたいために早食いになっていないか等の指摘もあったので指導していく。
 - 次年度の日課表について大きな変化は考えていないが、今年度、火曜日と木曜日に高学年は6時間授業で行っていたものを次年度は火曜日だけ6時間と考えている。習い事等が木曜日に多いことを考えた。昼休みや清掃の時間を削る学校が多くなっているが、本校では「よく学びよく遊ぶ」の観点や縦割り活動を重視しているためからこれまで通りにしている。
 - 校長による学校評価として、「新しいことに挑戦 みんなで知恵を出し合って 本気で取り組む」をテーマに掲げ経営にあたった。「学び＝ワクワク」を重点におき、授業づくりと学力向上に取り組んだ。「授業がよくわかる」と答えた児童が増えたことは大きな成果である。

児童に係る情報共有の時間を大切に、子どもの小さな変化に全職員で共通理解を図り指導にあたった。保護者面談等を活用し、子どもの実態を捉えて生徒指導に活かすことができた。日常生活からペア・グループ学習を推進し、協働的な学びを促すことで、児童の学びを深めることができた。さらに児童の話す・聞く意欲と能力の向上がみられた。不登校傾向にある児童が安心して学校に来ることができるように「ワクワクルーム」を立上げ、長期欠席する児童が減少した。スクリーンタイムや就寝時刻を守ることは課題が残った。家庭とも連携し生活リズムを整えていきたい。学校運営協議会の協力により、地域ボランティア制度の充実が図られた。三川ふるさと学習において、地域の人や自然、文化財等と触れ合う活動を経験することができ、自分たちの生き方を考えることにつながった。日課表の見直しは、児童のゆとり時間を確保するとともに、教職員の教材研究の時間確保と時間外勤務時間の削減につながった。

○次年度は、タブレットが更新され、より主体的に学ぶことに期待がもてる。「学ぶ喜びを実感できる授業づくり」をさらにすすめていきたい。また、自助・共助による危機回避能力を育む防災教育にも力を入れていきたい。

◇学校運営の反省と次年度の構想に対する質問と意見 各委員より



- 学校行事や校外行事等がYouTube配信になると学校の状況や児童の様子が分かりいいと感じる。
- 名前の呼び捨ては気になっていたので賛成ですが、「さん」へ統一してもよいと思う。
- 中学校に配置されているスクールカウンセラーの方の活用について、またどのような方なのか。情報提供してもらえるとありがたい。
- 6時間授業の日が減ることで、年間における授業時間の確保は大丈夫なのか。また、朝学習では何をするのか。
→次年度の計画では、夏休みと年末年始休業がそれぞれ1日短くなる。朝学習は、国語や算数の基礎基本となる内容の学びを重視する。
- 通学路のグレーチングとなっている箇所は地域の方にとっても危険だし、改善を要望していきたい。また、ALTの配置についても継続して要望していきたい。
- タブレットの更新の話が合った。家庭でのスクリーンタイムやゲームに関する課題があった。SNSの利用については今どきの子どもは活用能力が早い。その能力を苦手とする年配者へ伝達するような方向を取れないだろうか。
→今後、年配の地域の方からコマ回しなどを教えていただく活動を考えている。そのお礼に子どもたちが年配の方にタブレットの使い方を紹介する活動などもできそうだ。教えていただくだけでなく、自分たちも年配の方のためになる活動を仕組んでいきたい。
- 「ワクワクルーム」の設置によって不登校傾向の児童が減ったということはよかった。
- 「子ども予算」というのはどのような出どころで、どのように活用されるのか。
→今年度から教育委員会内で教育長にプレゼンして認められたら運用できる予算。
- 国際交流で山形大学農学部の留学生が来校した経緯について。
→三川町の英語指導員から繋いでもらって今年度始めた。
- 同窓会の積立金の有効活用を考えてもらいたい。
→学校で自由に使えるお金が少ないので是非活用方法を考えていきたい。

◇その他、学校課題や熟議テーマについて

- 少子化にともない、学校のありかたそのものが問われている。子どもとのつながりが失われないうちに、また、地域コミュニティに関わる場が失われないうちに検討していかなければならない。時が来てから考えては遅い。今から将来を見通して意見を出し合うようにしたい。